

九・真田の知略 描かれた真田丸 その姿は徳川の謀略か、軍学者の創作か

しろはく古地図と城の博物館富原文庫 代表 富原 道晴

大河ドラマ「真田丸」が来年放映されることに決まり、大阪や上田は多くの注目を集めている。富原文庫でも平成10年(1998年)、上田商工会議所で「真田太平記の世界、戦国時代の城と合戦絵図展」を開催し、真田郷の真田氏歴史館でもこれまで3年続きで「真田家の城館と戦歴展」「大坂冬の陣展」「大坂の陣」展を開催され、古城絵図や錦絵を提供してきた。六文銭の旗印は新幹線上田駅から市内いたるところにたなびき、開催した絵図展も来場者は1万人近くに及んでいる。しかし、豊臣大坂城は徳川幕府によって完全に壊滅させられ、今も徳川元和大阪城の地中に眠っている。今残る仙石氏の上田城に真田氏の痕跡はない。真田丸も同様である。豊臣氏が戦争準備した慶長19年(1614年)10月から、12月20日には和議が成立し、真田丸は取り潰される。真田丸の着工から見ても3カ月しか存在しない。

古城絵図は、江戸時代の軍学の研鑽のために多くが調査され残されてきた。しかし、真田丸に絵図は皆無といえる。唯一、真田丸の絵図と伝える物は広島浅野文庫の諸国古城之図に収録された「真田丸」のみである。その姿は20間の主郭と80間の2郭で構成され百間四方、南に虎口を設け、北東西が断崖で大坂城側からも独立した城の姿である。大坂冬の陣図には多くの真田丸が描かれている。大坂の陣は慶長19年(1614年)の夏の陣と同20年(1615年)の冬の陣の総称であり、冬の陣の講和で豊臣大坂城の総構と外堀は埋められたため、真田丸が描かれるのは大坂冬の陣絵図のみである。

絵図に残された真田丸の丸馬出イメージは創られた虚像か。大坂冬の陣には木版で喧伝された絵図、殆どの絵図に描かれた丸馬出の真田丸がある。極めて簡単に描かれた真田丸である。殆どの人が注目しない構造といえる。一方、複雑

な形状の角馬出や、真田本丸以下三の丸まで描かれた、真田城とも言える絵図が残されている。それらは兵法上出来すぎた感もあり、軍学者の創作である可能性もある。

謎の絵図、その特異な構造を紹介すると、大坂城総構から南に横通道といわれる通路を隔て、大坂城側も含めて断崖上に独立した城郭が構成されている。城外側は峻険な断崖と石垣の城壁で守られ、本丸の城外側に隠し城門があり、奇襲が出来る。真田本丸大坂城側には断崖上に二層の物見櫓、南城外側左右に櫓、石垣上は狭間付の土塀、郭間も石垣と土塀で遮断され、籠城にも耐えられるように四基の建物も描かれている。さらに城内側西に清水口、東に平野口が設けられ、角馬出の様相を呈している。真田丸に対応する総構堀は狭く、城内側に4カ所の木橋、城側の堀に木柵が構築されている。東側平野口門は枡形であり、総構の堀は枡形を囲むように迂回し、真田丸東崖下に設けられた水堀につながる。城内からの出口である枡形からの木橋は真田本丸からの横矢をまろに受ける。ここまで出来ると江戸時代の軍学者の作品と思えなくもないが、絵図から見た謎の真田丸である。



複雑な角馬出、横矢掛かりの真田丸



真田城、堅固な要塞、真田丸



伝来する真田丸、木版、写図にみる丸馬出



さまざまな丸馬出を伝える絵図

CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH